



薬のこと、知っていますか？



気を付けたい！多すぎる薬と副作用

高齢になると、複数の持病を持つ人が増えてきます。そして、病気の数だけ処方される薬も多くなります。70歳以上の高齢者では、6種類以上の薬を飲んでいることも珍しくありません。

薬が増えると副作用が起こりやすい！

高齢者では、処方される薬が6種類以上になると、副作用を起こす人が増えることが分かっています。そのため医師や薬剤師は薬の数を減らせないかの見直しや、増やさずに済む方法を検討しています。

頻度が多い副作用はふらつき・転倒

高齢者に起こりやすい副作用は、ふらつき・転倒です。特にふらつき・転倒は薬を5種類以上飲んでいる高齢者の4割以上に起きているという報告もあります。



薬について セルフチェック



- 薬の副作用や効果について不安になることがある
- 飲み方がよく分からない
- 薬と薬の飲み合わせが分からない
- 指示通りにきちんと薬を飲めない
- 薬があまりがちになる
- 健康食品や市販薬を自己流で使っている

1つでも当てはまったら、要注意

薬の正しい使い方、飲み方を薬剤師がサポートします。



薬との上手な付き合い方

ポイント

① むやみに薬を欲しがらない

ポイント

② 飲んでいる薬は必ず伝えましょう

ポイント

③ 自己判断で薬の中断をしない

飲み残しの薬代、なんと500億円！

薬を用法・用量通りに飲んでいる人は、全国でわずか2~3割と言われ、無駄になっている薬代は年間約500億円にもなるそうです！（日本薬剤師会調べ）

薬は用法・用量を守ってこそ効果を発揮するもの。自分の身体のためにも、処方された薬は飲み切りましょう。

お薬でこんなお困り事はありませんか？ 薬局ではこんなサービスもあります

*医師と薬剤師が相談の上、実施します。また、一部負担金が発生するサービスもあります。

薬の粉碎



薬剤師がご自宅に薬をお届け



薬のパック(一包化)



市販薬の選び方のアドバイス



服薬カレンダーの販売

